



令和7年度 学校だより

天王丘



令和7年7月18日(金)

第9号

観音寺市立栞田小学校

発行

長
子
配
付

ひとつの季節をこえて、また一步。

本日7月18日は、1学期の終業式を予定しておりましたが、大雨警報の発表により臨時休業となりました。子どもたちとともに節目を迎えることは叶いませんでしたが、この紙面を通して、1学期の歩みを振り返り、皆様とともに子どもたちの成長を改めて感じていただけたらと思います。

4月の入学式から始まり、授業参観、スポーツ祭、プール開き、そして4年生の洋上学習まで—この1学期間、子どもたちはさまざまな行事に挑み、一人ひとりが確かな成長の歩みを重ねてきました。どの行事も天候に恵まれ、安全かつ充実した形で実施することができたことは、日頃から本校の教育活動を温かく支えてくださっている保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力のおかげです。心より深く感謝申し上げます。



さて、1学期の始まりにあたって、私は子どもたちに二つのお願いをしました。一つは「自分の命は自分で守ること」。そしてもう一つは「周りの人のよいところを見つけて、それを伝えること」です。今日の終業式では、全校児童とともにこの二つについて振り返る予定でした。

一つ目の「命を守る」について、子どもたちは「人の話をしっかりと聞くこと」「いざというときに落ち着いて判断し、行動すること」の大切さを、日々の生活の中でしっかりと体得してきました。登下校では、

先生や班長の話に耳を傾け、特に1年生の姿からは交通ルールを意識して登下校できるようになった様子がうかがえます。授業中も、先生や友だちの話を真剣に聞く姿があり、掃除の時には静かに落ち着いて取り組むことができるようになってきました。「話を聞く、ルールを守る、落ち着いて行動する」—こうした日常の小さな積み重ねこそが、子どもたち自身の命を守り、周囲の大切な人の安全にもつながっていくのだと、学校全体で意識を育んできた1学期でした。



二つ目の「よいところを見つけて伝える」ことについても、数々の行事や日常の活動のなかで、子どもたちは自然と実践してくれました。「がんばっていたね」「すごかったよ」—そんな温かい言葉が交わされる場面に何度も立ち会いました。お互いのよさを認め合うことは、自己肯定感を育て、自分を大切に思う力につながります。子どもたちの表情やあいさつ、「ありがとう」の一言に、内面の成長と確かな自信がにじみ出ていた1学期でした。

どうか夏休みの間も、ご家庭の中でこの二つの約束について語り合っていただければ幸いです。そして、ぜひご家族のよいところをたくさん見つけて、たくさん言葉で伝えてあげてください。その一言が、きっと子どもの心に力強い光を灯します。

2学期、さらにたくましく、優しさと輝きを増した子どもたちと再会できる日を、心から楽しみにしております。今学期も本校の教育活動へのご支援・ご協力、誠にありがとうございました。

